

第79回 定時株主総会

2021年6月25日

セイコーエプソン株式会社

2020年度事業概要

2020年度事業環境

新型コロナウイルスの影響

各国の経済対策

ワクチン接種の増加



世界経済全体は改善に向かう方向

2020年度事業環境

サプライチェーンの問題

海上輸送におけるコンテナ不足

電子部品の不足



今後の動向に引き続き注視が必要

2020年度事業環境



在宅印刷需要の高まり



新興国 経済活動の制限



売上収益

(単位:億円)



9,959 億円

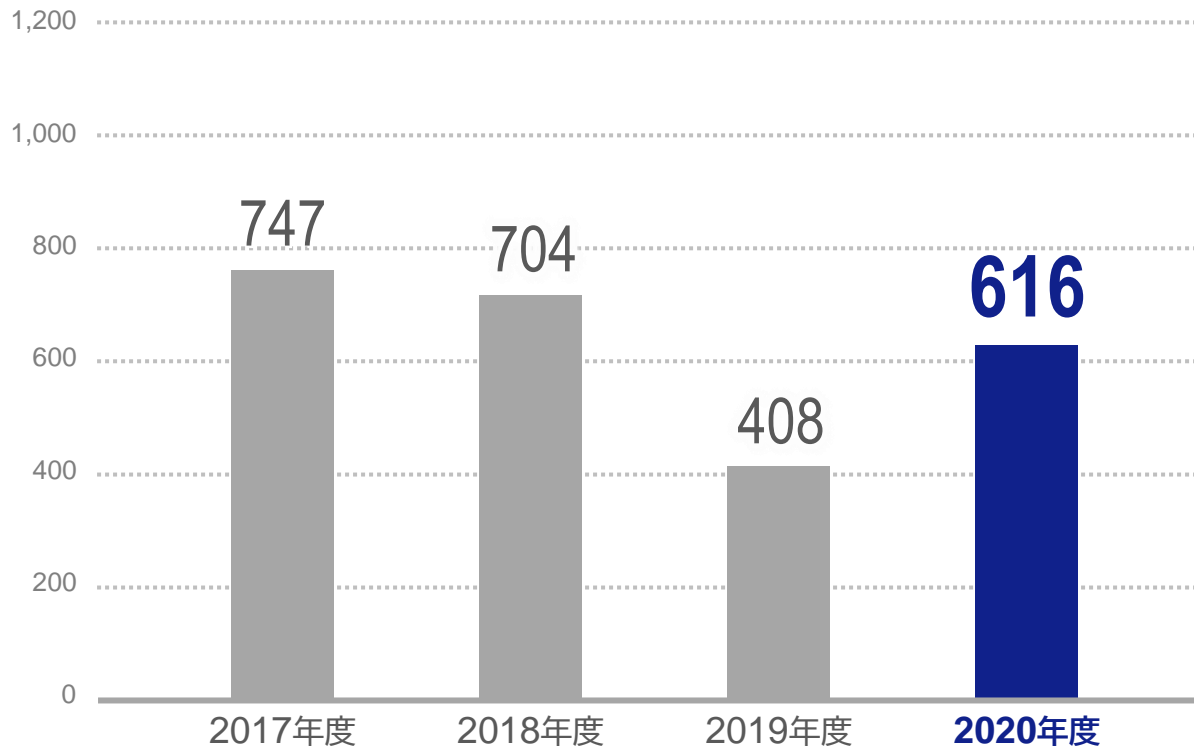
前期比

4.6%減



事業利益

(単位:億円)



616 億円

前期比

50.9%増 

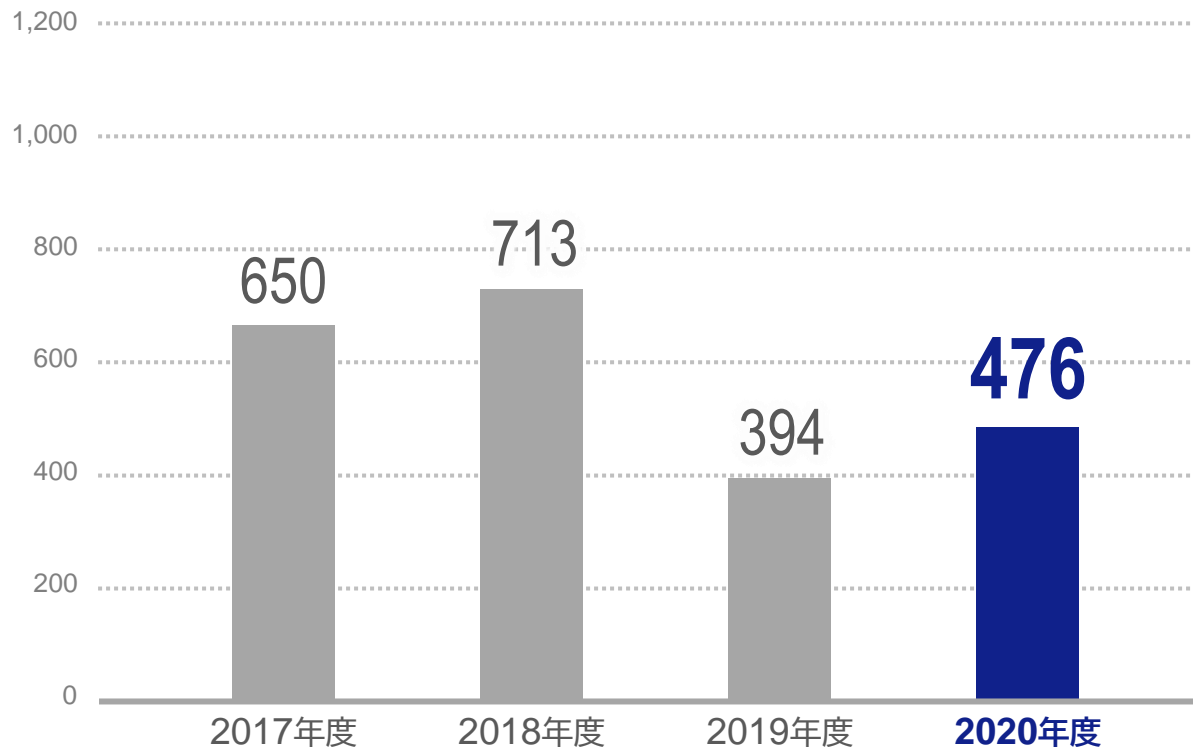
営業利益

(単位:億円)

476 億円

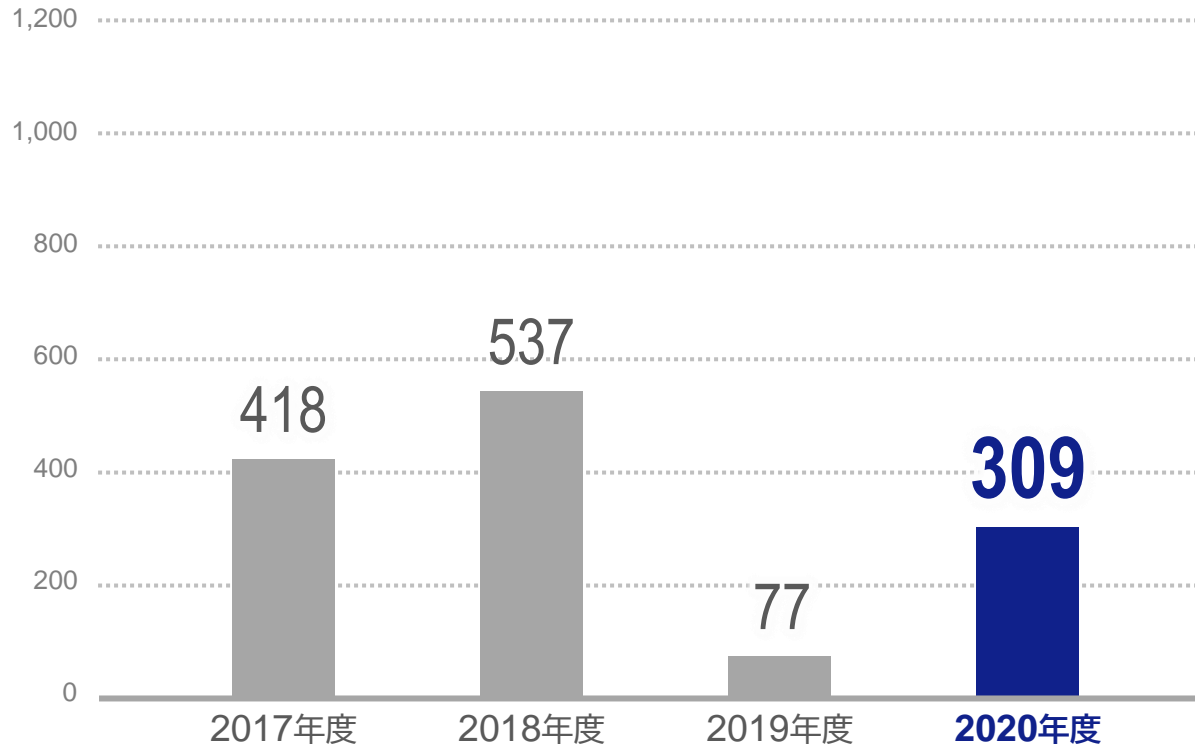
前期比

20.7%増 



親会社の所有者に帰属する当期利益

(単位:億円)



309 億円

前期比

299.9%増



2020年度 平均為替レート

USDoll

106.01 円

前期比

3%円高



ユーロ

123.67 円

前期比

2%円安

その他通貨[※]

94

前期比

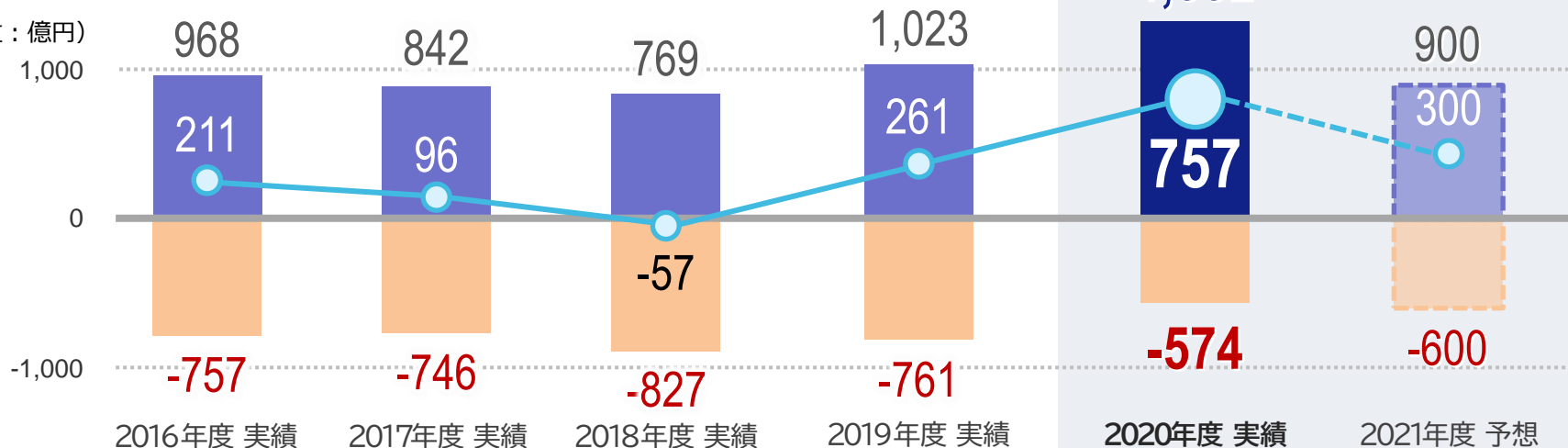
6%円高

※その他通貨の各レートを
為替ボリュームに応じて
加重平均した値について、
2019年度を100とした指数

フリー・キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

(単位：億円)
1,000



フリー・キャッシュ・フローは大幅に増加

セグメント別の状況

プリンティングソリューションズ事業セグメント

プリンター事業

増収



- 在宅勤務などによる印刷需要増加
- 本体の販売価格上昇



オフィス・ホーム用インクジェットプリンター

プリンティングソリューションズ事業セグメント

プロフェッショナルプリンティング事業

減収



第1四半期を中心とした経済活動制限



商業・産業用インクジェットプリンター

プリンティングソリューションズ事業セグメント

その他

減収



OS切り替えに伴う需要が収束



PC販売

プリンティングソリューションズ事業セグメント

売上収益

7,077 億円

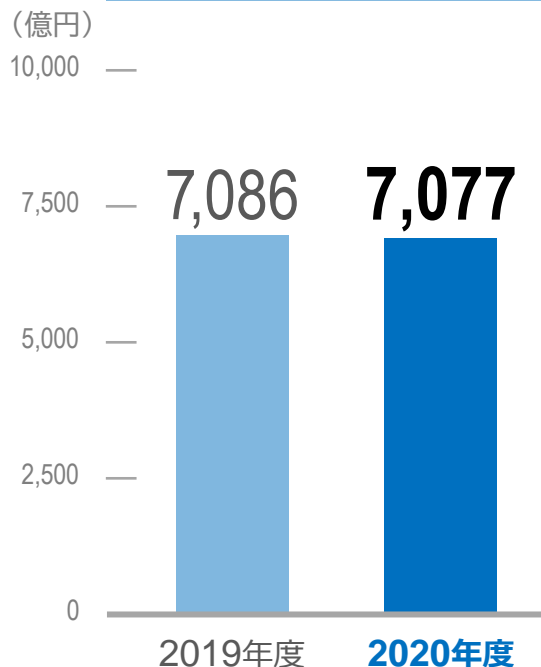
前期並み

セグメント利益

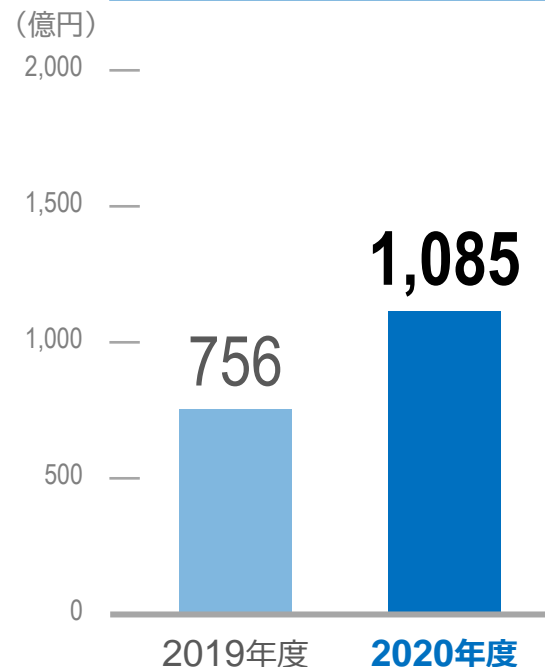
1,085 億円

前期比 **43.5%増** 

売上収益



セグメント利益



ビジュアルコミュニケーション事業セグメント

プロジェクター

減収



- プロジェクター市場の縮小
- 物流遅延による製品供給不足



ビジュアルコミュニケーション事業セグメント

売上収益

1,414 億円

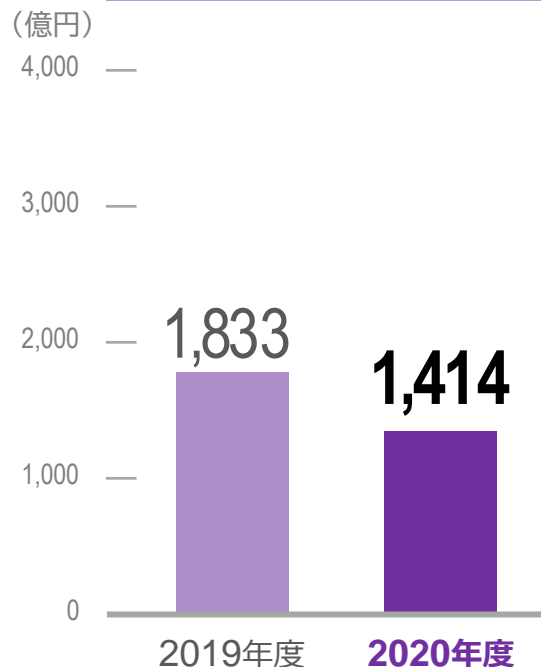
前期比 **22.8%減** 

セグメント利益

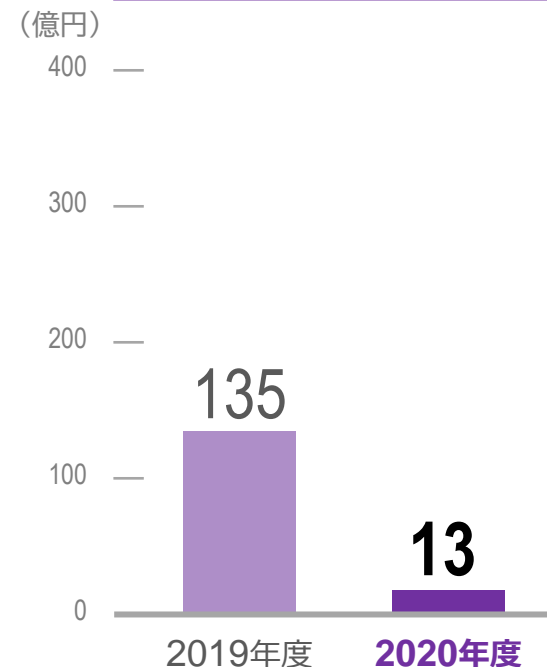
13 億円

前期比 **90.1%減** 

売上収益



セグメント利益



ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメント

ウェアラブル機器事業

減収



- 販売店の営業自粛
- インバウンド需要落ち込み



TRUME



ORIENT STAR



ORIENT



セイコーウオッチ向けビジネス
企画・販売:セイコーウオッチ(株)

ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメント

ロボティクスソリューションズ事業

増収



主に中国での案件獲得



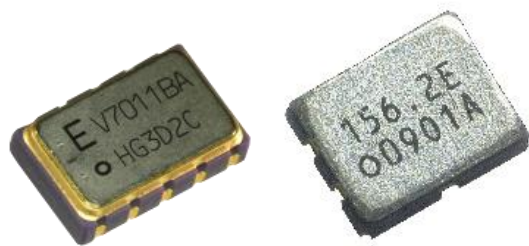
ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメント

マイクロデバイス他事業

増収 ↗

水晶デバイス PCおよびヘルスケア向け増加

半導体 ファンドリーの需要増



ウェアラブル・産業プロダクツ事業セグメント

売上収益

1,486 億円

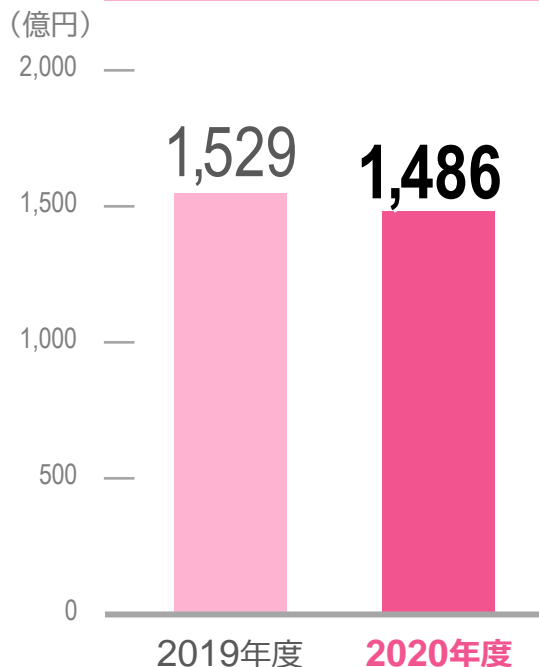
前期比 2.8%減 

セグメント利益

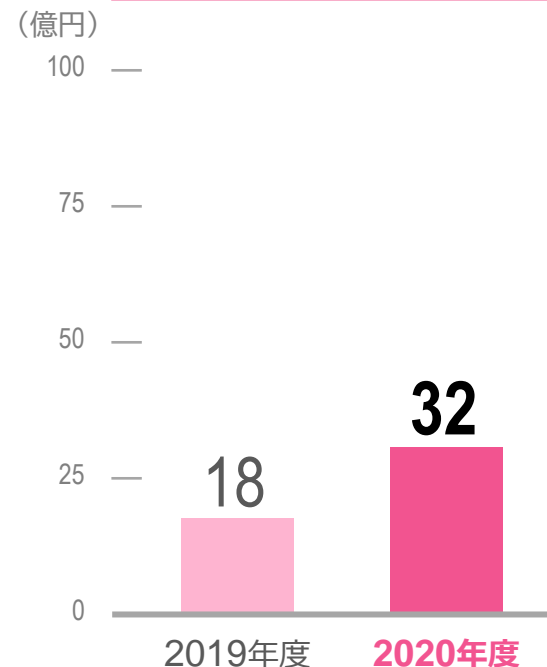
32 億円

前期比 75.0%増 

売上収益



セグメント利益



今後の企業価値向上への取組み

持続可能でこころ豊かな社会を実現する



2050年に「カーボンマイナス」と
「地下資源*1消費ゼロ」を達成し、
持続可能でこころ豊かな社会を実現する

*1 原油、金属などの枯渇性資源



エプソンが取り組む社会課題



環境負荷の低減



労働環境の改善



分散型社会
をつなげる



インフラ・教育・
サービスにおける
質の向上



ライフスタイルの
多様化



社会課題解決に向けた重要テーマ



循環型経済の牽引



産業構造の革新

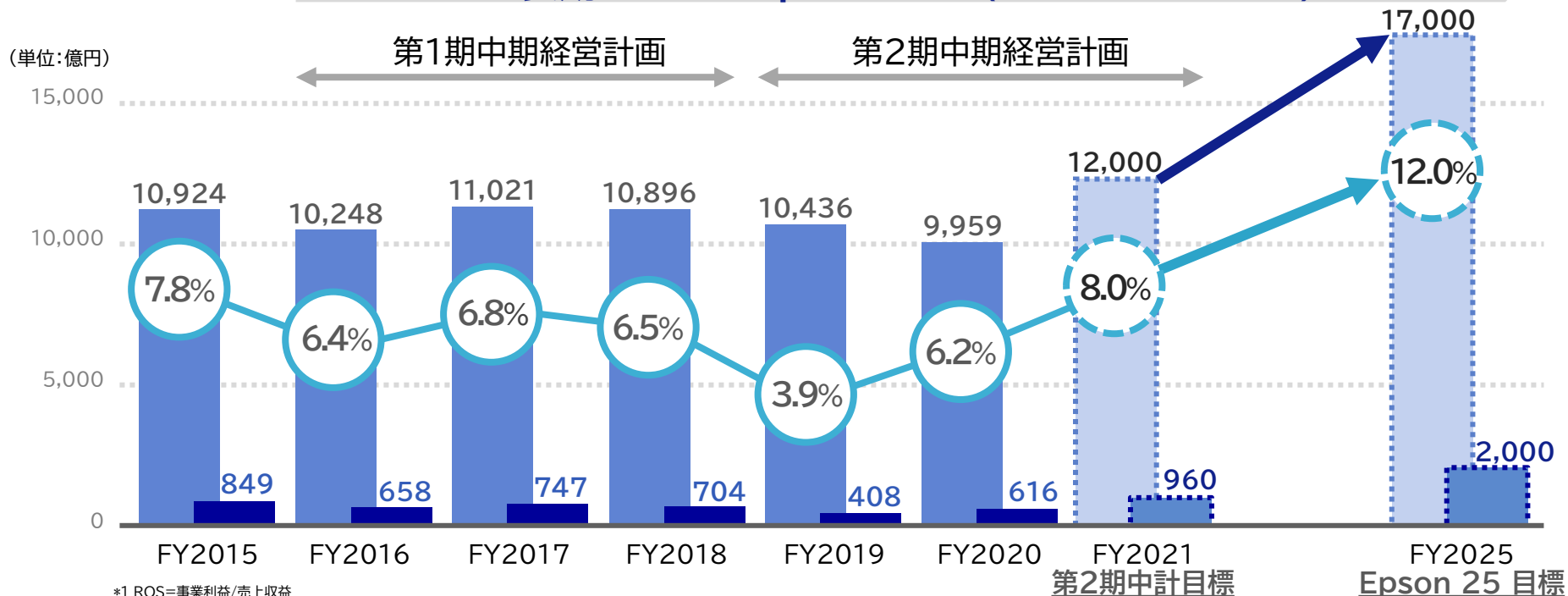


生活の質向上



売上収益 ■■■ ■■■■ 事業利益 ■■■ ■■■■ ROS*1 ○○○○

長期ビジョン Epson 25 (FY2016-2025)



2025年度の業績目標は達成困難

過去5年間の主な取り組み

製品・サービスの拡充

- **戦略製品の投入**
(高速ラインインクジェット複合機、大容量インクタンクモデル、大判プリンター、高光束プロジェクターなど)
- **サブスクリプション型サービスの開始**
- **プリントヘッド外販ビジネスの強化**

基盤強化

- **全社視点での経営資源配分**
- **プラットフォーム設計による開発スピード向上と低コスト化**
- **生産能力の強化**
- **BtoB販売体制の構築**
- **将来技術獲得のための出資・CVC設立**

問題点

- 過度な売上成長を前提とした計画
- 戦略実行スピードの不足
 - ・ 強いハードを活かしたソリューション展開
 - ・ 産業領域での販売体制構築
 - ・ プロジェクター代替技術対抗
 - ・ 新規事業創出 など
- 環境変化(デジタル化)への対応遅れ

対応

- 事業領域の目指す姿の再定義と戦略進化
- 事業領域を跨いだ全社戦略の強化

環境

DX

共創

- 事業ポートフォリオ明確化による適切な経営資源の配分
- 戦略を支える経営基盤の更なる強化

環境問題をはじめ 社会課題解決に対する 要求の高まり



New Normalによる 「分散化」の加速



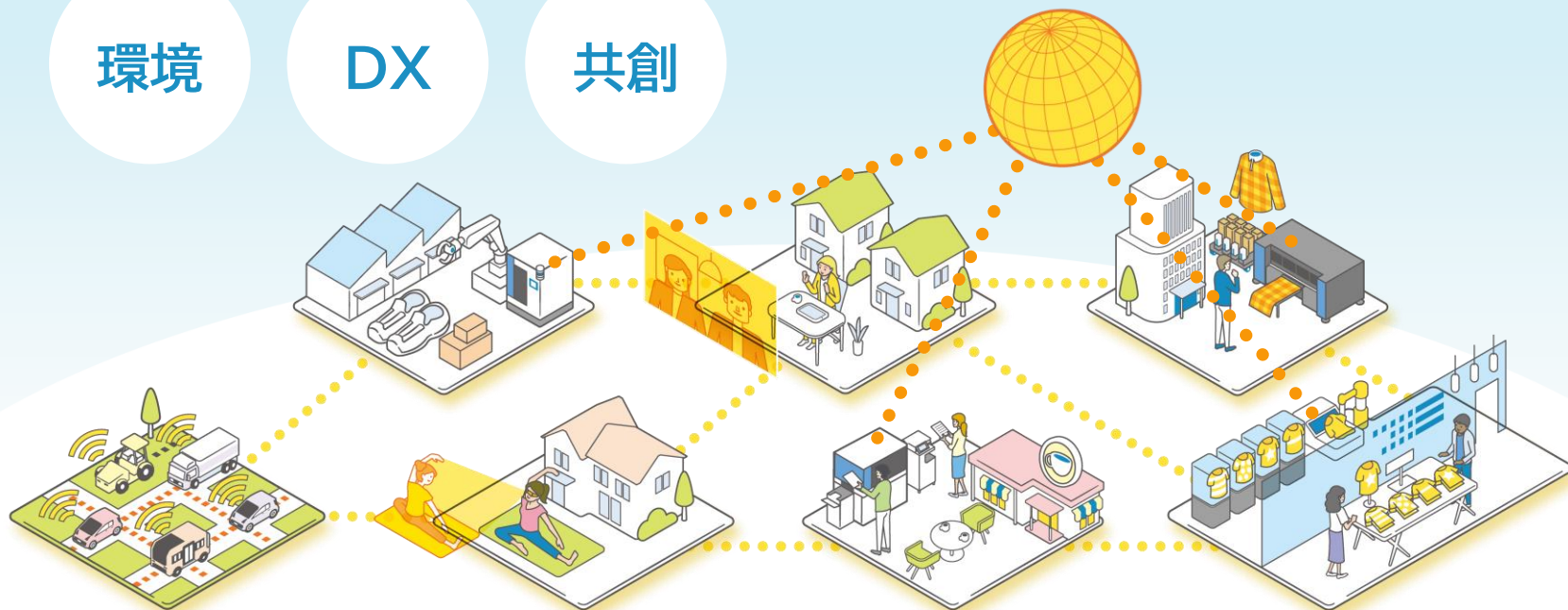
長期ビジョン Epson 25 Renewed

「省・小・精の技術」とデジタル技術で 人・モノ・情報がつながる、持続可能でこころ豊かな社会を共創する

環境

DX

共創



環境ビジョン2050実現に向けた取り組み

1

脱炭素

2

資源循環

3

お客様のもとでの
環境負荷低減

4

環境技術開発

環境投資・費用

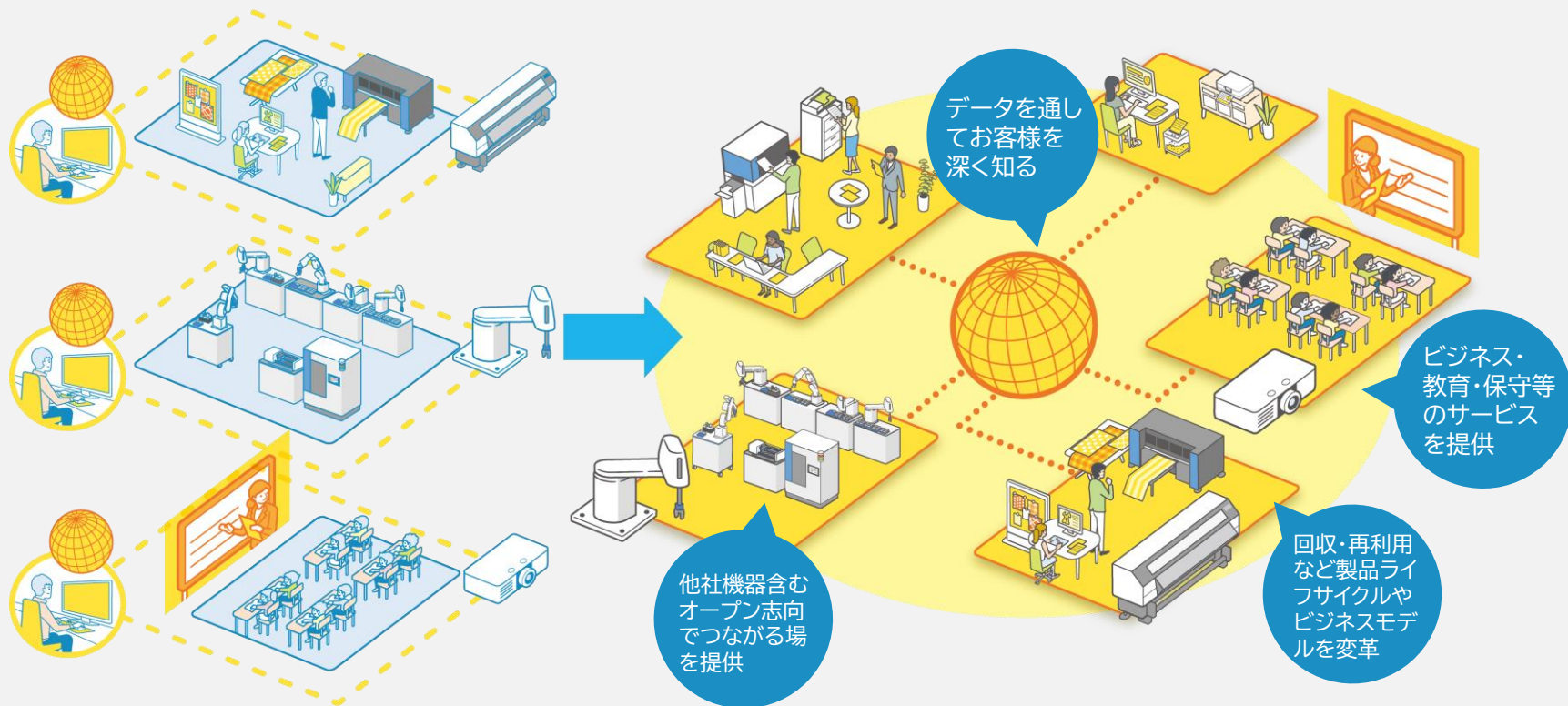
- 2030年までの10年間で1,000億円の費用を投入 1 2 4

2023年には、エプソングループ全体の消費電力*の100%を、再生可能エネルギー化
(2021年4月 長野県拠点達成 / 2022年3月 日本国内達成予定)*

- 環境負荷低減に貢献する商品・サービスの開発に
経営資源を集中 3

*一部、販売拠点などの賃借物件は除く

強固なデジタルプラットフォームを構築し、人・モノ・情報をつなげ、お客様のニーズに寄り添い続けるソリューションを共創し、カスタマーサクセスに貢献する



技術、製品群をベースとし、共創の場・人材交流、コアデバイスの提供、協業・出資を通して、さまざまなパートナーと社会課題の解決につなげる

企画・開発

協調・連携

共創の場・
人材交流

コアデバイスの
提供

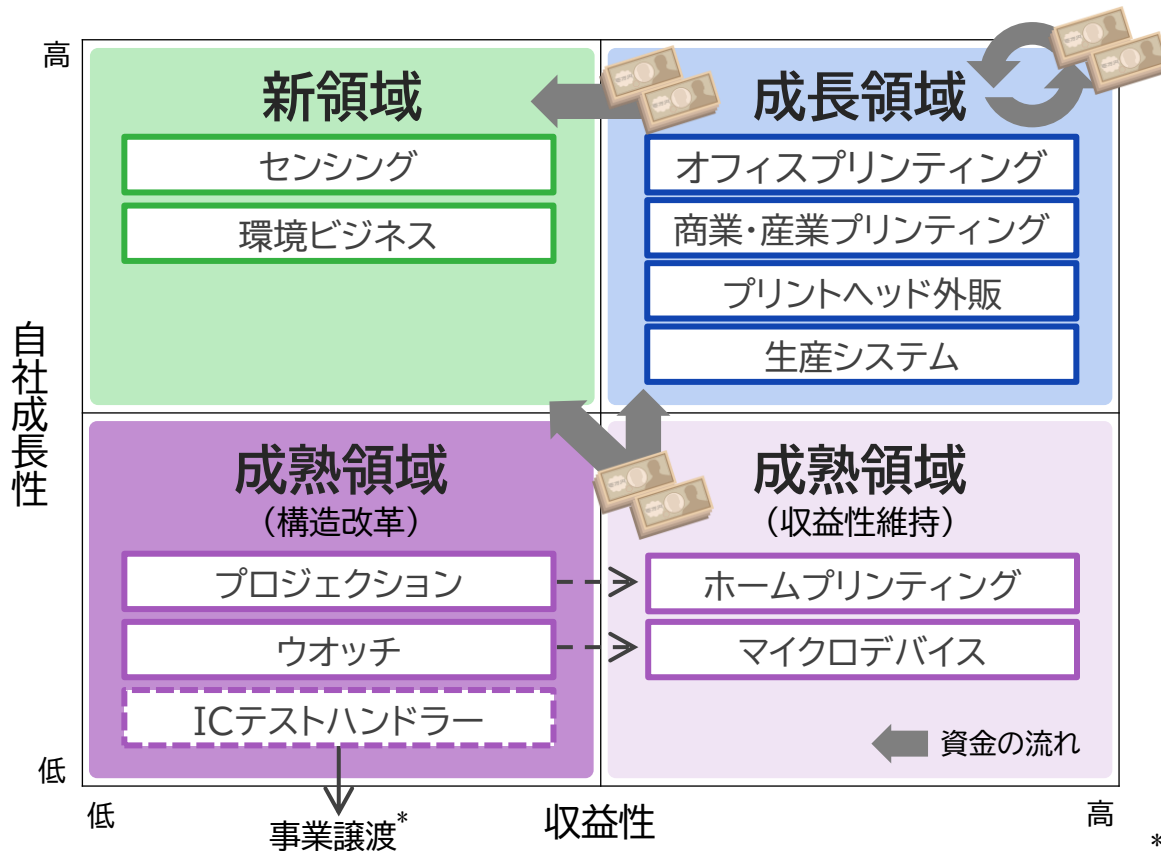
協業・出資
(CVC)

Epson Innovation Platform

ソフトウェア・デジタル技術活用
+
強いハードウェア製品群

「省・小・精の
技術」

ビジネス領域を「新領域」「成長領域」「成熟領域」に大別



- 位置付けに合わせた資金配分および目標設定
- 事業間シナジーを勘案しながら事業の方向性を判断

* 2021年4月 「ICテストハンドラー事業」を兼松株式会社に譲渡

5つのイノベーション領域を設定し、戦略推進する

成長領域

成熟領域

新領域

オフィス・ホーム
プリンティング
イノベーション

オフィス
プリンティング

ホーム
プリンティング

商業・産業
プリンティング
イノベーション

商業・産業
プリンティング

プリントヘッド
外販

マニファク
チャリング
イノベーション

生産システム

ビジュアル
イノベーション

プロジェク
ション

ライフスタイル
イノベーション

センシング

ウオッチ

環境
ビジネス

マイクロデバイス

世界経済の不透明感が増すなか、収益性を重視した経営へ

	2020年度 (実績)	2023年度 (目標)	2025年度 (目標)
ROIC ^{*1}	5.6%	8%以上	11%以上
ROE ^{*2}	5.9%	10%以上	13%以上
ROS ^{*3}	6.2%	8%以上	10%以上

*1 ROIC = 税引後事業利益 / (親会社の所有者に帰属する持分 + 有利子負債)

*2 ROE = 親会社の所有者に帰属する当期利益 / 親会社の所有者に帰属する持分
親会社の所有者に帰属する持分および有利子負債は期首・期末を平均して算出

*3 ROS = 事業利益 / 売上収益

3カ年累計(2021~2023年度)

単位 | 億円



ポイント

成長投資に
優先的に配分

継続的・安定的な
株主還元

有利子負債返済 等

経営意思決定の透明性確保・迅速化

- **取締役会の実効性向上**
 - 執行へのさらなる権限移譲、実効性評価による継続改善
- **投資家等との継続的なエンゲージメント**
- **経営判断の迅速化**
 - グローバル統合IT基盤整備による情報の一元管理



2021年度業績予想

新型コロナウイルス影響からの正常化が進む

物流の混乱



下期に正常化を予想

部材供給



下期以降も不透明

プリンティングソリューションズ事業セグメント

レーザープリンターからIJPへの置き換え

商業・産業IJPのラインアップ拡充

プリントヘッド外販ビジネスの拡大



売上を大きく伸長

ビジュアルコミュニケーション事業セグメント

プロジェクター市場

フラットパネルディスプレイの浸食
前年度に対し微増に留まる



構造改革による収益性改善を継続

マニファクチャリング関連・ウェアラブル事業セグメント

マニファクチャリング
ソリューションズ事業



経営資源投入

ウェアラブル機器事業



構造改革推進

マイクロデバイス他事業



堅調な需要が継続

売上収益 **1兆700** 億円

前期比 **7.4%増**

事業利益 **600** 億円

前期比 **2.7%減**

親会社の所有者に帰属する

当期利益 **380** 億円

前期比 **22.9%増**

配当
基本方針

成長投資に配分した上で、
強固な財務構造の構築と、
積極的な利益還元
に
並行して取り組む

安定的な利益創出により
連結配当性向40%を目標

配当について	中間	期末	年間
2020年度	31円 (実績)	31円 (予定)	62円 (予定)
2021年度 (予想)	31円	31円	62円

持続可能でこころ豊かな社会を実現する

